

第3回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

■日時：令和元年6月21日(金) 19:00～20:45

■場所：瑞浪市役所 西分庁舎1階会議室

■出席委員

山田幸男、大野正博、和田さき子、長谷川孝夫
渡邊勝利、本荘恵子、上休場泰満

欠席委員

遠藤俊哉、伊藤修二、瀬戸圭太、遠藤里絵、川口良
[名簿順 敬称略]

■集落支援員

土屋泰次郎（土岐地区）、西尾伸一（陶町）

■事務局

景山博之（まちづくり推進部長）
工藤嘉高（市民協働課長）
渡辺 裕（市民協働課まちづくり支援係長）
小木曾匡洋（市民協働課まちづくり支援係主事）

■日程

1. 会長あいさつ
2. 審議事項
 - (1) 取組推進方針に基づく取組の個別検証
3. 協議事項
 - (1) まちづくり全般に関する取組検証提案について
4. まとめ
 - (1) 今年度検証した審議事項について
 - (2) 諮問に対する答申について
5. その他

■議事

【1. 会長あいさつ】

会長 皆さん、こんばんは。週末でお疲れのところご苦労さまです。

TVでニュースを見ていましたら、東京のある住宅街で急な坂道が採り上げられており、危険なので自転車を降りてひっぱってくださいとの行政による注意喚起の看板がありました。ところが、みんな無視をして猛スピードで下り、登りも電動アシスト自転車のため結構なスピードで走っていました。みんなが危険だと感じているのに、なぜ注意しないのかとのリポーターの問いかけに、注意したら喧嘩になるから言わない、とのことでした。なにかこのあたりに、住民に気軽に声を掛け合ってお互いによくしていこうということが難しい時代であることを感じました。

さて、この会議は前회가流会となりましたので、本日で3回目となりますが、このメンバーでは今回で最後となります。今日までの意見をまとめて市長に答申をしていくこととなっています。短い時間ではありますが、中身の濃い、充実した話し合いができればと思います。どうぞ協力よろしくお願いします。

【2. 審議事項】

(1) 子ども及び若者のまちづくりへの参加促進

事務局 <本日の進行、審議事項について資料①に基づき説明、質疑無し>

消防本部 <資料①取組概要シートに基づき説明>

<質疑>

委員 平成29年度と平成30年度を比べた時に、大幅に人数が変わっていますが何か理由がありますか。

消防本部 受身の取組みであり、学校の先生から要望がない年度は人数が減ってしまいます。

委員 DIGなどは学校に出向いてやっていますか。また、実施した学校数はいくつですか。

消防本部 学校に出向いて開催しています。学校数の資料は、現在手元にございませんが、基本的には小学校では高学年が参加しています。

委員 実施後の児童、生徒の反応はどのようなですか。アンケート等は実施されていますか。

消防本部 アンケート等の聞き取りをしていますが、子ども達は自宅に帰り、家庭の中で話題にしてもらうよう伝えています。

<2グループに分かれ、取組みについて意見交換を実施>

<1グループ発表>

まず、参加者数が減っている点を考えました。PRの重要性の声がありましたが、そもそも、PRしても実施が無理ではないか。実態として、講習会の開催回数が年間に100回とすると、およそ3日に1回というペースとなります。人員的にもこれ以上増やすことができるのか、という話になってしまいます。であれば、外部の防災士や教員の協力を求めては、との意見がありました。

また、実際に訓練する中身、やはり形式的なものが多いような気がします。より具体的に何がどうできるのか、というような訓練ができれば、との意見がありました。

<2グループ発表>

子どもたちの防災については、日吉町で防災訓練としてやっているが子どもの参加がほとんどありません。土岐地区としては、防災運動会を10年程やっており、子どもは

子ども向け競技への理解が深まってきている実感があります。このことから地域として、子ども達への意識付けが大切ではないかと意見がありました。陶町では、チャレンジ研究室などで子どもたちと一緒に、防災に取り組んだ事例がありました。

また、AEDについての意見が多く、公的な施設では夜間でも使えるよう設置されているようです。一方で、各事業所などで任意で設置してあるものは、設置場所が把握しきれていないため、瑞浪地区ではAEDのMAPを作り、周知した事例があるとのことでした。同時に、AEDの講習の回数を増やすべきでないか、例えば中学生、高校生がより実践を経験してもらえれば、有効ではないかとの意見が出ました。

【3. 協議事項】

(1) まちづくり全般に関する取組検証提案について

事務局 <資料②に基づき説明、質疑無し>

 <2グループに分かれ、意見交換を実施>

 <1グループ発表>

自治会加入については、高齢者が多い地区など各地域により課題が異なってくると思われます。

また、そもそも自治会の目的を根本から見直さないと、おそらくメリットも何も感じない、いくら努力しても自治会に入ろうとする土壌が無いので無理なのではないか、との意見が出ました。

 <2グループ発表>

田舎ほど人とのつながりが強くなり、昔は自治会に入ることが当たり前のような雰囲気があったが、今は、自治会に入る目的を説明する必要があるのではないのでしょうか。そこには、自治会に入っていなくても普通に生活ができてしまう背景があると思われ

ます。
しかし、例えば災害時は、自治会に入っていなくても同様の避難は必要となります。訓練を実施する際など、自治会未加入者にも声をかけ一緒に参加してもらい、地域としての人としての絆ができれば自治会に加入する可能性が増えるのではないのでしょうか。

いずれにしても、地域としてのつながりが弱くなってきている時代なのでは、という意見が出ました。

会長 ここで大野委員より本日検証した内容について、アドバイスをお願いします。

委員 <審議事項について>

消防本部の取組みについての課題というのは、形式的な活動であることです。具体的

な場面を設定し、実体的な体験・訓練を実施するとよいかと思います。

例えば、朝日大学ですと、場面を設定し、実際に学食で火災が起きた場合に、どの人がどのように助けに行くのかを実践し、学生の避難経路も各自でシミュレーションさせています

震災は、いつどこに起きるかわかりませんが、知識だけではなく具体的な体験が大事ではないかと感じています。

<協議事項について>

自治会がそもそも必要なかの議論が必要ではないでしょうか。先ほどの意見交換時のグループ内で、その必要性として、災害時の助け合いや、行政側から情報授受に必要である、との意見が出ました。

しかし、情報授受の面では、学生に聞くところによると、自治体からの配布物は関係ないから要らない、となってしまうそうです。そこで情報の発信者は、各年齢層でどういう情報があるのかリサーチすると、効果的ではないかと思います。

根本的に自治会が必要か否かについて、必要であるのなら何が必要なのか、自治会が不要なら本当に無しでよいのか、代替手段でカバーする必要があるのか、このように段階的に検討しないと、自治会があるからどう加入率を増やすかという議論では有効な答えが導き出せないのではないか。

会長 ありがとうございました。瑞浪市では、市民協働の原則からも、自治会は無くてはならないものであると思いますが、今一度、根本から考える必要もあるように思いました。

【４．まとめ】

（１）今年度検証した審議事項について

<資料③に基づき事務局より説明、質疑なし>

（２）諮問に対する答申について

<下記事項について、事務局より説明、質疑無し>

- ・ 答申について、今年度に審議事項として検証した①取組推進方針に基づく個別事項、②まちづくり全般に関する取組検証事項の２点を中心に作成
- ・ 答申案については、後日事務局と会長で作成し、委員へは郵送にて確認していただく
- ・ 市長への答申は、正副会長及び事務局にて７月中に行う

【５．その他】

事務局 <今後の流れについて事務連絡>

<まちづくり推進部長より、閉会のことば>

【散開】